



ほ 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 働き方が変わる「心の筋トレ」
高野 登 著 新潮社
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2017年9月1日 Vol. 179
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡 邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

未来図

あまり考えたくはありませんが、50歳を過ぎてから将来の生活を考えるようになりました。“老後”です。まだ子どもが大学生2人なので、お金は右から左へと出ていき、蓄えることなど到底できる環境にありません。

100年安心と言っていた「年金」ですが、現実には老後の拠り所になるのか誰もが不安に感じていることだと思います。最近では70歳支給どころか、いっぺんに年金75歳支給という話まで耳に入ってきます。

今までは「60歳で貯金が2500万円あれば安心」「マイホームを売れば老人ホームに入れる」「65歳まで退職金に手をつけなければ安心老後」「定年後は雇用延長でゆっくり働く」「歳を重ねたら公的医療制度が充実して安心」などゆったりとした老後を考えていた人も大勢いたのではな

いでしょうか。
「働き方改革」という名目で、年金が空白となる65歳から74歳の間は働いてもらい、自助努力で生活費をまかなう仕組みづくりを今急いでいるそうです。

政府は元気な高齢者は働いて年金の担い手になってもらうことを推奨しています。74歳まで働けば年金保険料も引き続き支払い、年金生活なら取られない税金まで負担し、高齢者は働けば働くほど奪われる仕組みになっていきます。



私たちは“未来”を想定して今を生きていますが、未来に対して『安心』が持てないのなら、やはりいろんな面で行動にセーブがかかってしまうのも理解できます。

私たち一人ひとりが思い描く『未来図』が、笑顔で実現できる社会になって欲しいものです。

2050年。
あなたは何歳ですか？
あなたの子どもは何歳でしょうか？
その時、世界はどうなっているでしょうか？
あなたはその時、どんな生き方、働き方をしたいですか？



檻の中のライオン

最近ではほとんど行く機会がなくなった動物園ですが、最後に行ったのはまだ子どもが小さかった頃なのでもう10年以上も前になります。

動物園のライオンは「檻」の中にいます。この「檻」は、来園者を守るためなのか、それともライオンを守るためでしょうか？普通に考えれば、来園者が動物に襲われないために「檻」があると考えます。

しかし、別の見方もできると思うのです。野生のライオンと違って、動物園で飼いならされたライオンは、エサを獲る必要がありません。毎日規則正しい時間に食べやすくカットされたエサを与えられています。野生のライオンと違い、食いつぶれる心配はありません。

もしも「檻」がなくなり、自由に放たれたらどうでしょう。生きていけるでしょうか？自然界には食べやすくカットされたエサはありません。そう考えると、「檻」はライオンのために存在しているとも言えます。自由に放たれたライオン自身は「檻」がなくなつてはじめて生きていけないことが気になります。

私たちの周りを見渡してみれば、不自由や不便であつたり、こんなものなければいいのと思うことがたくさんあります。しかし、その反面守られていることに気づかないことがたくさんあります。家族や会社、法律などなど。今の時代は“自由”な弱肉強食の社会です。その中で生きていくには自分自身に「本物の実力や知識」を身につける必要がありますね。



【座右の銘にしたい名言】



笑い声は時代を超え、想像力は年を取らない。そして、夢は永遠のものだ。

(ウォルト・ディズニー/米国の実業家)